

## ハインリッヒの法則と ヒヤリハット

ユニオンマシナリ(株)  
安全衛生委員会

## ハインリッヒの法則 (1:29:300の法則)

災害	1件 (大規模)
事故	29件 (中規模)
ヒヤリハット	300件 (小規模)

災害の裏には、事故が多くあり、その事故の裏には、ヒヤリハットというものが、さらに多くあるという特徴がある。  
これが、ハインリッヒの法則(1:29:300の法則)が意味している重要なこと。

## はじめに

- ハインリッヒの法則に基づくヒヤリハットの撲滅というもので、社内の事故、そしてそれが甚大になった災害というものを、防ぐことができる。
- ハインリッヒの法則が意味すること、および、ヒヤリハットの撲滅というものを理解し、あなたが率先して活動してこそ、災害や事故が起こり難い会社となる。
- ヒヤリハットは、おかしいと思う感覚である。この感覚を業務にも使うことで、業務改善にもなる。
- ヒヤリハットの撲滅というものは、災害や事故を防ぐだけに留まらず、業務改善にもなり、会社の収益にも影響が出てくるものである。

## ヒヤリハット (ひやりとしたこと、はつとしたこと)

- 「ヒヤリハット」とは、ヒヤリとしたり、ハッとしたりしたこと
- 例えば
  - カッターナイフが机の上に置いてあり、取ろうしたら、カッターの刃がむき出しになっていて、ヒヤリとした。
  - 廊下を曲がったら、荷物を山積みにした台車が、こちらを見ずに進んできて、ハッとして、ぶつかりそうになったが、かろうじて避けることができた。

## 不具合の顕在化

- ヒヤリハット、すなわち、それほど何かおかしいところ<不具合>に気づいたということ
- 不具合
  - 業務上の何かおかしいところ、日常の何かおかしいところ、そういったおかしいところ
- 不具合は、どんなところにもある
  - 生きている中で不具合でないところはない
- その不具合に対して、ヒヤリとしたり、ハッとしたりすることで明白に気づくことがある
- 何かしらの不具合が意識の中で顕在化したもの

それがヒヤリハット

## 不具合の例「火災」

- 火災の最終的な原因は、火が出たこと(着火)。
  - 着火(火が出たこと)だけで火災にはならない。火が出ても、引火物がなければ、火が広がること(引火)はない。
- ➡ この時点で、火災の原因は、2つの要因(着火と引火)からなる。
- さらに、スプリンクラーなどの自動消火装置が備えていないこと(設備の不備)から、延焼したという事例がある。
- ➡ これで、火災の原因が、3つの要因(着火と引火と設備の不備)ということがわかる。

## 不具合のつながり

- 不具合は、気づいて直すことができれば、問題ない。
- 気づかないことと、直さないことに問題がある。
- 気づかず、直さない不具合がいくつも蓄積すると、ある時それらがつながる

事故になったり、災害になったりする。

- 事故や災害の原因
  - ➡ 複数の要因がつながりあって起こる。
  - これらの要因が、不具合。
- 事故や災害につながった要因も不具合である。

## 事故や災害

- どんな事故や災害でも、原因が必ずある
- その原因は、いくつもの要因が繋がったもの。
- ひとつの要因が原因となって、事故や災害が起こることはない。
  - ひとつの要因が、次の要因とつながり、さらにそれが次の要因とつながっていき、そうして、いくつもの要因が繋がりがり、それらが原因となって、事故や災害が起こる。

それらの要因が不具合

## 顕在化させる不具合

- 事故や災害の原因は、複数の要因からなる。
  - その要因は業務上の不具合である。
  - その不具合を顕在化させたものが、ヒヤリハット
- 意識の中で、不具合を顕在化させることができるかどうか重要。

## ヒヤリハットの撲滅と スケールフリーネットワーク

- 顕在化した不具合とは、モノヒトコつながりが多くあるもの
- この不具合を直すことができれば、その不具合につながっているモノヒトコにも影響が伝播し、不具合の伝播を断ち切ることができる。
- 不具合を直すことは、良い具合を造ることでもある。
- モノヒトコつながりが多くあるものならば、この良い具合というものも伝播する可能性がある。

## ヒヤリハットの撲滅

- ヒヤリハットは不具合を顕在化させたもの
- 一方で顕在化していない不具合の数は相当数ある。
- ここからどのようにして、災害や事故を防ぐ方法があるのか？
  - ➡ それが、ヒヤリハットの撲滅。
- ヒヤリハットの撲滅
  - ➡ ヒヤリハットを直していく活動のこと。
- 撲滅という言葉を使っているように、これには終わりが無い。
- 毎日毎日、ヒヤリハットを直していく。これを延々続けていくこと。

## 業務改善

- ヒヤリハットの撲滅は、顕在化した不具合(ヒヤリハット)を直すこと。
  - ➡ 不具合を直すということは、良い具合にすること。
- 良い具合というものは、業務の効率を上げるものにつながる。
  - ➡ 業務改善と同じ
- ヒヤリハットだけでなく、これはどこかおかしいと思うことが大事。
- 業務の中で、ヒヤリとしたり、ハッとしたりすることなく、どこかおかしいと思うことがあれば、それを直していくのである。
  - ➡ それが業務改善である。

## おかしいと思う感覚

- 「これはおかしい。」  
ヒヤリハットも業務改善も、それが基本。



業務の中で、これはおかしいと思う感覚が大事。

- ヒヤリハットは明白に、ヒヤリとしたり、ハッとしたりすることであるが、それ以前に、これはおかしいと思う感覚がもっと大事。




その感覚は、予測。

## おわりに

- 災害や事故を起こさないように考えた業務であっても、必ず災害や事故は起きる。
  - ➡ 災害や事故を起こさないように考えた業務というのは、顕在化した不具合を考慮したものであり、いまだ顕在化していない不具合は考慮されていないから。
- 災害や事故は、顕在化していない不具合のつながりでも起こる。
- 顕在化していない不具合を直すことなど、災害や事故を起こさないように考えた業務からではできない。
  
- しかし、ヒヤリハットの撲滅では、顕在化していない不具合でさえも、直している可能性が高い。
  - ➡ 良い具合というものが伝播している可能性があるから。

## 予測

- 今の状態に、違う状態が起こったときに、どのようなことが起こるか。それを常に予測する。
  - ヒヤリハットは、自分が怪我をするなどの予測が働くから、ヒヤリとしたり、ハッとしたりする。
    - ➡ 怪我をするなど身体的な危険に対する無意識の予測。
  - 無意識の予測だけでなく、業務の中で、意識して予測を行なうことで、これはおかしいと思う感覚を身につけてほしい。
- 
- これができるようになると、ヒヤリハットの撲滅という災害や事故を防ぐ改善だけでなく、業務効率の改善にもなってくる。

- ヒヤリハットの撲滅を行なっている企業では、災害や事故が起こり難いのである。
- このことを、あなたが実感として理解できるだろうか？
- この理解がなければ、ヒヤリハットの撲滅という活動など、できない。
- あなたが理解し、率先して活動してこそ、災害や事故が起こり難い会社となるのだ。
  
- 災害や事故を起こさないためには、ヒヤリハットの撲滅を行なうのである。